

こころの深みに耳を傾け、人間の癒える力、成長する力を支える

環境人間学部 井上靖子

**キーワード** 心理療法、カウンセリング、表現療法、想像力、臨床心理学、分析心理学**研究概要**

私は、臨床心理士・公認心理師としても、教育、福祉、医療の多様な臨床現場で心理療法を継続的に実践している。心理療法において重要なことは、同じ悩みを抱えていても、一人一人異なる多様なこころの世界を持っていることを理解することにある。悩み、問題や病いは、その人らしく人生の過程を生きていくための契機であり、本人の自由な訴えや表現に耳を傾けていくことによって、こころは自律的に変容し、主体的な気づきや洞察が生じ、成長し、変化していくのである。これらの実践をもとに、いのちを慈しむこころと関わりがある「母なるものの元型」に着目し、単著『「母なるものの元型」イメージがもたらす心の変容～二度生まれの心理療法論』を上梓した。また、人々のこころの安定と関わる伝統文化に着目し、海外においては、南インドで母から娘に伝わる床絵コーラム(マンダラ)についての調査研究や、日本においては、少子高齢化、過疎化によって失われる伝統文化や地域への愛着継承を目的として、兵庫県家島諸島の家島小学校で地域の昔話をういたミソドラマというグループワークを実践した。内的現実と外的現実は思いの外、密接に繋がっており、心身を整えることで人間関係や可能性が広がる意義を伝えたい。

アピールポイント

虐待によるトラウマや生きづらさ、人間関係の葛藤等を抱えて、存在基盤が揺らいでいる人々の自己治癒力が如何に発揮されるのか、カウンセラーはどう在るべきか、からだ、水、風、大地、容器などのイメージの力を手掛かりに実践的に探究している。

応用分野

現代人が軽視しがちなことは自らの心身の状態に気づくこと、人と人との直接的な対話をする事にある。こうした問題意識から、脳生理学との共同研究、身体疾患、難病やがんなどの慢性疾患、心身症への心理療法、伝統文化継承の観点から文化人類学との共同研究が考えられる。